

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12613

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23700717

研究課題名(和文) 学校運動部活動の歴史的展開に関する総合的研究

研究課題名(英文) A history of extracurricular sports activities in Japan

研究代表者

中澤 篤史 (NAKAZAWA, Atsushi)

一橋大学・大学院社会学研究科・講師

研究者番号：70547520

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本のスポーツ文化は、欧州のそれが地域社会のクラブによって支えられてきたのとは対照的に、学校の運動部活動によって支えられてきた。では、この日本固有のスポーツのあり方である学校運動部活動は、いかにして形成・拡大・維持されてきたのか。この問いに研究代表者は継続的に取り組んでいる。その一環として本研究では、学校運動部活動の歴史的展開を、a)明治20年代から現在までの、b)中等教育機関を対象に、c)実態・政策・言説の視点から、d)事例分析による個別史と、e)米・英との比較も加えて、総合的に考察した。

研究成果の概要(英文)：In many countries, youth sports are centered around community clubs outside of school, but in Japan there is a system of extracurricular sports activities affiliated with the school, in which many students participate. Japanese schools do not only offer curricula according to the government's course of study, but also set extracurricular sports activities. Japanese teachers do not only teach students inside the classroom, but also manage extracurricular sports activities outside the classroom. This system of extracurricular sports activities is a distinctive aspect of the Japanese school education and differs from systems in foreign countries. Then, how the system itself was established? Why were sports connected to schooling in Japan? In order to answer these questions, this study tried to collect historical documents and to describe a history of extracurricular sports activities in Japan.

研究分野：スポーツ科学

キーワード：スポーツ文化 運動部活動 学校教育 歴史

1. 研究開始当初の背景

日本では、青少年のスポーツ活動の中心は、学校の運動部活動である。学校は課外活動でありながら運動部活動を用意し、教師はボランティアでありながらその指導を担う。こうした学校運動部活動がこれほど大規模に成立している国は、日本以外に無いといってよい。欧州や北米では、学校ではなく地域社会のクラブが中心であり、学校に運動部活動がある場合も、その規模や教師のかかわりは日本に比べて小さい。そこではスポーツが学校教育と切り離されてきた。対して日本では、運動部活動として、一見すると教育とは無関係に思われるスポーツが学校教育活動として編成され続けてきた。つまり、学校運動部活動の成立状況が示唆しているのは、スポーツと教育の日本特殊な関係である。こうした日本特殊な関係がいかにして構築されるのかを明らかにするため、研究代表者は日本固有のスポーツのあり方である学校運動部活動が、歴史的にどのように形成され、拡大してきたのか、そして現在においてどのように維持されているのかという、その形成・拡大・維持過程を探究している。

こうした探究は、日本のスポーツ文化の基盤とその国際的特徴に関連することから、スポーツ科学全体にとって重要である。しかし、先行研究はそれに十分に答えられなかった。具体的には、まず現在における運動部活動の「維持」過程を明らかにしてこなかった。現在の運動部活動を対象とした研究は、その意義や問題点、社会的機能を明らかにしてきたが、反面で、運動部活動自体がどのように維持されているのかを論じてこなかった。これに対して研究代表者は、中学校のフィールドワークと学校・教師対象の質問紙調査を実施し、組織レベルの分析から、学校の組織編成や学校-保護者の関係が運動部活動の存廃に与える影響を考察し、個人レベルの分析から、ボランティアでありながら運動部活動に積極的にかかわる教師の意味づけ方や実践のあり方を考察してきた。これらによって現在の運動部活動の「維持」過程は明らかになりつつあった。

しかし、運動部活動が歴史的にどのように形成され、拡大しながら現在に至るのかは、依然として明らかではなかった。運動部活動の「形成・拡大」過程は、体育・スポーツの通史研究で部分的に扱われるか、ごく少数の事例分析があるのみで、その蓄積は十分でなかった。これに対して研究代表者は、「形成」過程に関して、わが国初の学生スポーツ団体である東京帝国大学運動会の事例を考察し、「拡大」過程に関して、戦後運動部活動の政策的展開を考察した。しかし、それでもなお、a)明治 20 年代の萌芽期以来の通史は不完全であり、b)高等教育に比べて中等教育に関する検討が不十分であり、c)政策以外の実態や言説の検討が不足し、d)事例分析の数も少なかった。さらに日本の特殊性を示すためには、

e)日本のモデルとなった米・英の運動部活動の歴史的背景と比較する必要があった。本研究は、これら a)~e)を乗り越えて、運動部活動の「形成・拡大」過程という歴史的展開を総合的に考察することを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学校運動部活動の歴史的展開を、a)明治 20 年代から現在までの、b)中等教育機関を対象に、c)実態・政策・言説の複数の視点を組み合わせ、d)全体史に加え事例分析による個別史も描きつつ、e)米・英との国際比較も行いながら、総合的に明らかにすることであった。

3. 研究の方法

この目的を達成するため、具体的な分析課題として、第 1 に、明治 20 年代から現在までの運動部活動の実態・政策・言説に関する通史的に分析すること、第 2 に、戦後運動部活動に対する教師集団の意識の変遷を分析すること、第 3 に、米・英における運動部活動の歴史的展開に関する文献調査を実施することを設定した。

4. 研究成果

主な研究成果は次の 3 つである。

第 1 に、明治 20 年代から現在までの運動部活動の通史を描いたことである。とりわけ、戦後以降の歴史的展開を詳細に検討し、それを、(1)民主主義的確立期(1945 年~1953 年)、(2)能力主義的展開期(1954 年~1964 年)、(3)平等主義的拡張期(1965 年~1978 年)、(4)管理主義的拡張期(1979 年~1994 年)、(5)新自由主義的/参加民主主義的再編期(1995 年以降)、の 5 つに時期区分した。こうした時期区分が示唆するのは、運動部活動の戦後の拡大過程が、とくに(1)・(3)・(4)の時期における学校教育の民主主義化・平等主義化・管理主義化と密接に連動してきた可能性である。言い換えると、運動部活動がこれほどまでに大規模になった歴史的背景には、民主主義的な教育を実現するため、平等主義的な教育を実現するため、管理主義的な教育を実現するために、スポーツが必要とされたからであると示唆された。一見すると教育とは無関係に思われるスポーツが学校の中で行われ、教師の手によって指導されてきた背景には、こうした日本特殊な歴史があることが明らかになった。

第 2 に、戦後運動部活動を支えた教師集団の意識の変遷を描いたことである。戦後の教師たちは、一方で「教師の運動部活動への従事は、教育か、それとも労働か」という葛藤を抱えながら、もう一方で「運動部活動に全生徒が自主的に参加するには、どうすればよいか」という難問に向き合ってきた。それゆえに、運動部活動が選手中心主義に傾くことを否定したり、必修クラブ活動の設置を否定したり、運動部活動そのものを社会体育に移

行することに躊躇したりしてきた。その帰結として、戦後の教師たちは運動部活動を消極的ながら維持し続けたことが明らかになった。

第3に、米・英の運動部活動の歴史に関する文献を部分的ながら蒐集・整理したことである。日本の運動部活動の国際的特徴を示すためには、その明治導入期や戦後改革期のモデルになりながら、結局は、日本ほど大規模化することはなかった米・英の運動部活動の歴史と比較し、その異同を検討する必要があった。しかし、わが国に紹介されている米・英の体育・スポーツ史は、教科体育中心であり、運動部活動の史的全体像は不十分であった。そこで文献調査を実施し、運動部活動の展開に関する日・米・英の比較史的考察を試みようとした。ただし、蒐集できた文献の質と量はテーマの大きさに比して十分であったとは必ずしもいえず、これから本格的な国際比較研究に進むための課題が浮き彫りになった。

以上を踏まえながら、研究成果の総括として、日本の学校運動部活動の形成・拡大・維持過程のプロセスをまとめた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

- (1) Nakazawa, A., "Seeing sports as educational activities: A postwar history of extracurricular sports activities in Japan", *Hitotsubashi Journal of Social Studies*, 45(1), pp.1-14, 2014, 査読無。
- (2) 中澤篤史, 「スポーツと学校教育: これまでの体育学はどう論じてきたか」, 『季刊家計経済研究』103, pp.42-50, 2014, 査読無。
- (3) 中澤篤史, 「運動部活動の歴史的変遷と『社会的意義』」, 『体育の科学』64(4), pp.226-230, 2014, 査読無。
- (4) 中澤篤史, 「なぜスポーツは学校教育へ結びつけられるのか: 運動部活動の成立と子どもの自主性の理念」, 『一橋大学スポーツ研究』32, pp.13-25, 2013, 査読無。
- (5) 中澤篤史, 「学校運動部活動と戦後教育学/体育学: なぜスポーツは学校教育へ結びつけられるのか」, 『教育と社会研究』23, pp.135-144, 2013, 査読無。
- (6) 中澤篤史, 「学校運動部活動の戦後史(上): 実態と政策の変遷」, 『一橋社会科学』3, pp.25-46, 2011, 査読無。
- (7) 中澤篤史, 「学校運動部活動の戦後史(下): 議論の変遷および実態・政策・議論の関係」, 『一橋社会科学』3, pp.47-73, 2011, 査読無。
- (8) 中澤篤史, 「学校運動部活動研究の動向・課題・展望: スポーツと教育の日本特殊的関係の探求に向けて」, 『一橋大学

スポーツ研究』30, pp.31-42, 2011, 査読無。

- (9) 中澤篤史, 「運動部活動のあり方に対する日本教職員組合の見解に関する考察: 教育研究全国集会(1951-1989)における各都道府県報告書を資料として」, 『教育と社会研究』21, pp.11-21, 2011, 査読無。
- (10) 中澤篤史, 「学校運動部活動の変遷とジュニアスポーツ」, 『現代スポーツ評論』24, pp.162-169, 2011, 査読無。

〔学会発表〕(計 9 件)

- (1) 中澤篤史, 「運動部活動研究の現在と展望(学生フォーラム)」, 日本スポーツ社会学会, 2015.3.23, 関西大学, 大阪府, 査読無。
- (2) 中澤篤史, 「社会学の立場から～体育教師はなぜ運動部活動にのめり込むのか～(シンポジウム: 保健体育教師への学際的アプローチ)」, 日本体育学会, 2014.8.26, いわて県民情報交流センター, 岩手県, 査読無。
- (3) Nakazawa, A., "Teachers interpret sports as educational activities: Fieldwork of extracurricular sports activities at a junior high school in contemporary Japan", World congress of sociology of sport, International Sociology of Sport Association, July 12th, 2014, Beijing, China, 査読有。
- (4) 中澤篤史, 「戦後体育学/教育学と学校運動部活動(シンポジウム: 体育哲学を再考する)」, 招待講演, 日本体育・スポーツ哲学会, 2013.8.18, 明治大学, 東京都, 査読無。
- (5) Nakazawa, A., "A postwar history of extracurricular sport activity in Japan: Sport or education?", World congress of sociology of sport, International Sociology of Sport Association, June 15th, 2013, Vancouver, Canada, 査読有。
- (6) 中澤篤史, 「なぜスポーツは学校教育へ結びつけられるのか」, 日本体育学会, 2012.8.23, 東海大学, 神奈川県, 査読無。
- (7) Nakazawa, A., "Educational activity or heavy burden?: A postwar history of Japanese teachers coaching students in extracurricular sport clubs", World Congress of sociology of sport, International Sociology of Sport Association, July 17th, 2012, Glasgow, UK, 査読有。
- (8) 中澤篤史, 「学校運動部活動のあり方に対する日本教職員組合の見解に関する考察」, 日本体育学会, 2011.9.26, 鹿屋体育大学, 鹿児島県, 査読無。
- (9) Nakazawa, A., "Why have Japanese schools needed sports?: A postwar history of extracurricular sport activities

in Japan ” , Joint conference of Association for Asian Studies and International Convention of Asia Scholars, April 2nd, 2011, Honolulu, USA, 査読有。

〔図書〕(計 3 件)

- (1)中澤篤史、『運動部活動の戦後と現在：なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか』、青弓社、2014、358 ページ。
- (2) Miller, A. and Nakazawa, A. et al., *Safeguarding, Child Protection and Abuse in Sport: International Perspectives in Research, Policy and Practice*, Routledge, 2014, 234 pages, (pp. 133-140).
- (3) 中澤篤史、他、『よくわかるスポーツ文化論』、ミネルヴァ書房、2012、204 ページ、(pp.84-85) 査読無。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

中澤 篤史 (NAKAZAWA, Atsushi)
一橋大学・大学院社会学研究科・講師
研究者番号:70547520